

令和5年度 学校評価総括表

天理市立山の辺小学校

前年度の成果と課題	<p><成果> ・コロナ禍のため全体での活動はできなかったが、低・中・高学年に分けたり、ＴＶで交流したり、工夫して体育行事や仲間集団づくりを実施した。・学年の実態に応じ、授業での発表や交流、提出等chromebookを活かした。・地域の人の協力を得ながら読書に親しむ活動が広がり貸出冊数目標を達成した。・3年ぶりのふれあい体験教室や田植え・稲刈りなど、地域の方々の協力を得て学校では体験できない貴重な学びを得た。・PTAを中心としたマイガッコウ活動では、保護者だけではなく児童が主体的に参加し自分の学校のために活動した。</p> <p><課題> ・子どもが主体的に考え発信する活動が少なく、高学年としての意識が持ちにくかった。「ワガマチ合考やまのべ」の内容や進捗状況が教職員に周知しきれず協力体制が作れなかった。教職員が就学前教育に目を向ける機会が少なく、スムーズな小学校生活への接続のため更に取組を進める必要がある。・働き方改革の工夫が周知徹底されず、時間短縮できているのにできていない。</p>		総合評価		
			4		
評価項目	具体的方策・評価指標	評価	具体的な成果と課題(評価の分析)	課題の改善方策等	学校運営協議会での評価
(1) 児童生徒を主体に考えた教育の推進	委員会や学校行事は、児童が主体的に取り組めるよう工夫して実施する。	4	裏 面 参 照	肯定的評価 93.3% 生活科や総合学習などでも児童が学びや思いを伝える発表や報告をするなど主体的に取り組む学習を行うなどして、児童の主体性を育む。	・それぞれの委員会がいるいろいろな企画をして学校を楽しんでいるのが良い。
	お互いを認め合いつながり合うなかま集団をつくるため、日常的な活動に加え学期に1回程度全校集会等の活動に取り組む。	4		肯定的評価 89.7% 身近に人権のことを考える環境づくりのため、毎月11日の人権をたしかめあう日を中心に朝の時間に放送で話題提供をする。お互いを認め合う機会としての人権集会を全校児童の参加で行う。	・委員会が主催した大なわ集会は、マイガッコウの保護者として参加したが、大変盛り上がった。毎回、自分たちの記録にチャレンジするというのが良かった。
	指導計画の作成を通じ児童理解を深め、全員がわかる授業づくりを目指し、各教員1本の公開授業を行う。	4		肯定的評価 90.3% 授業力向上を目的とし、研究主題にとらわれず実施していくようにする、また、期間を設定し計画的に行えるようにしていく。	・特別支援教育の関する評価が他の項目より低いことが気になる。紙面では具体的な取組の詳細が見えないのかもしれないが、しっかりと取組を進めていってほしい。
	支援を要する児童の実態把握に努め、個に応じた支援を行うだけでなく、特別支援学級においては児童が主体的に活動できる自立活動を推進する。	3		肯定的評価 84.1% 安心して活動できる教室環境づくり、ならびに、わかりやすい授業づくりに努める。	・国から与えられている一人一台端末は、保護者の期待も高い。更なる活用を望む。
(2) 新たな時代を生きる児童生徒のための教育の推進	学年の実態に応じ、chromebookを効果的に活用する。	3		肯定的評価 82.1% 児童間の意見の交流や、振り返りなど活用できる場面で適切に使用していく。	・歴史と文化のある山の辺小学校区ならではの取組も繰り広げていってほしい。
	実生活とSDGsを結び付けた内容を総合や社会の授業でとりあげ、新聞や発表等により深く広げられる取組を行う。	3		肯定的評価 81.5% SDGsに係る児童の主体的な活動を、学校行事や生活科・総合学習などで本校独自の取組を模索しながら進めていく。	・読み聞かせては、子どもたちは集中してよく聞いてくれ、読んでいる方も嬉しい。
(3) 読むこと・書くことに焦点化した学力向上の推進	朝の基礎学習タイムの時間を利用し、Yomuワークシート等の短い教材文章(新聞記事・物語など)を月1回以上活用し、読解力の基礎学力向上を目指す。	4		肯定的評価 90.8% 今後も継続的に活用し、読解力の向上を目指す。また、興味を広げていくきっかけとして、他の記事や文章を読む意欲付けとしても活用していく。	・図書委員の「よみきかせ会」では、しっかりと声を出して読めていた。立派だった。
	書く楽しさを味わえるように、自由作文だけでなくテーマ作文や友だちとの日記交流など、工夫を取り入れた指導を行う。	4		肯定的評価 87.2% 今年度同様に、図書ボランティアさんとの連携や、図書館前掲示板の活用、図書委員会の活動などで5000冊以上の貸し出しを目指す。	・貸出冊数の目標を達成したのは素晴らしい。蔵書を増やすために、地域で広報したり、PTAにお願いしたり等、働きかけるのもいいのではないかと。
	おすすめの本を紹介したり、しおりプレゼントを実施したりすることで学校図書館の利用を促し、年間5000冊以上の貸し出しを行う。	4			
(4) 地域や社会とのつながりを大切にした教育の推進	ふれあい体験教室では、地域コーディネーターと連携を行い、地域に住む様々な方ならではの学習内容・実施方法を充実させる。また、マイガッコウ活動をはじめ地域や関係機関の方々の協力を得た活動を年5回以上実施する。	4		肯定的評価 89.7% 地域コーディネーターとの連携が進み、学習内容の充実や、教員の負担軽減ができた。実施方法について課題があり、次年度変更を行う。	・マイガッコウ活動は、「自分たちの学校のために、できる時にできる人がする」という画期的な山小独自の素晴らしい取組。是非継続してほしい。
	子どもたちが安心してすごせる環境をつくるために、関係機関と連絡を取りあうだけでなく定期的な連絡会・合同研修を実施し、児童の共通理解をはかる。	4		肯定的評価 75.9% 4年ぶりに北中オープンスクールが実施され参加できた。さらに連絡会等を活用して児童の様子を共有していく。オープンスクールの実施については事前に連絡を密にとる必要がある。	・幼稚園と小学校のように、中学校ともつながりあって、中1ギャップで子どもたちが困ることのないように取り組みを進めてほしい。中学校は樺本と丹波市からも来る。地域の人との触れ合いの経験差は出てくるだろう。
	中学校と連携をはかり、オープンスクール等の行事を活用しながら、子どもたちが中学校の様子を知り中学校生活に不安なく期待をもって進学できるようにする。	3			
	学校ホームページで、学校行事や各学年の様子を定期的に発信し、年間50回以上の更新を行う。	3		肯定的評価 85.6% 更新時期が学期末に偏ってしまうという課題はあるが、教員の負担を考慮し、更新回数、時期共に今年度と同様の形を目指す。	・今年度は幼稚園児が学校に来る機会が多く、小学校に馴染みももてた。
(5) 幼児期の保育・教育との連携	入学してくる子どもたちの育ちについて幼稚園・こども園・保育所と小学校の職員間で情報を共有したり、年長児が小学校生活を知る機会をつくったりし、小学校生活がスムーズにスタートできる取組を進める。	3		肯定的評価 82.6% 連携を一方的なものにせず、スムーズに行うため、年度当初に小学校生活のスタートについて幼稚園・保育所と話し合う機会をもつ。年間計画に年長児が小学校生活を知る機会を組み入れ、小学校の学習とも関連させた計画で学習を進める。	・幼稚園と小学校のギャップを埋めるためには保護者の意識を変えていくことも大切。
(6) 教職員の働き方改革の推進	校務支援システムの掲示板等を活用し、終礼は週1回、職員会議は1時間以内で実施する。そして、毎週水曜日は管理職を含め全員18時までに退勤する。	4		肯定的評価 88.7% 毎週水曜日の18時退勤に加え、他の曜日は遅くとも19時退勤を目標として、勤務時間外の在校時間45時間以内をめざす。	・せっかく先生になったのに、途中で辞めてしまう先生も多いと聞く。先生のメンタル面が心配。
	出退勤状況記録表を活用し、教職員の超過勤務の改善を図る。	3		肯定的評価 88.7% 個々の教職員の勤務状況を可視化し、必要に応じて全体や学年等で話し合うなどして業務改善をめざす。	・休む人ができないように、管理職の先生にはこれからも働きやすい環境作りを力を入れてほしい。
	ホームページの委員会やクラブのページを集約し、教員の負担を軽減する。	4			